

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：西表島農業青年クラブ

活動地域：沖縄県 西表島

活動におけるテーマ

『 **人も自然も観光も循環する西表島** 』

本事業への関わり：2年目

西表島農業青年クラブとは

- ・西表島の45歳以下の農業者で組織されている
- ・主に農業の技術の発展にとりくみ、九州大会や全国大会でも表彰されている
- ・取組作物は、お米、パイン、マンゴー、サトウキビ、畜産等



西表島の課題やある資源

- ・西表島で獲れる農産物のほとんどは島外で食べられ、島内で食べられる農作物のほとんどが島外の農作物である。離島でもある為、仕入れも出荷にもコストがかかる為、地産地消や資源の循環を目指すことがとても重要である。資源はバカスやハガラがあるが今後は籾殻や米ぬかも島で使えるようにする₁

「人も自然も観光も循環する西表島」

環境

- 豊かな生き物が守られる
- イリオモテヤマネコの保全

経済

- 循環型の有機栽培の島
- 人、自然、観光が持続可能

社会

- 島民が住み続けたい島
- 島の魅力を島で感じる

環境保全の
基金が集まる

使用する農薬
が減る

島内産品が
島内で消費される

資源が島外へ
流出しない

島民の
収入向上

島外消費者の
購入増加

観光客が
長く滞在する

生き物に優しい農業
製品のブランド化

学校給食と連携した
島内消費と食育

ホテルや宿泊施設と
連携した島内消費

観光×地産地消の
ツアーコンテンツ

地域通貨×観光

有機作物の島内循環

観光の島内循環

経産牛の島内
肥育事業

堆肥を使った農業

経産牛の島外流出

生ごみの未処理
共同コンポストの臭い

高い輸送コスト
→農家の負担や環境負荷

農作物の島外流出と
島外作物への依存

農薬や化学肥料による
生物多様性への影響

牛の糞尿の未処理

課題

今年
の取組

今後
実施

将来
実施



農家

ホテル業者
民宿経営者
農家

エコツーリズム
協会
ツアー業者

西表財団

観光客 お土産を販売
製糖工場 する島民

観光客の短時間滞在

オーバーツーリズム
の懸念



生ごみの
堆肥化

農業廃棄物の
堆肥化

生ごみコンポストの
家庭配布

島内での精米
ライスセンター
の設置

堆肥化施設
の設置

コンポスト
配布実験

堆肥を使用した
有機農業

堆肥化のための
資源調達

サトウキビ
(バガス/ハガラ)

牛糞
稲わら・もみ殻

宿泊施設等の生ごみ
野菜やフルーツの残渣
家庭からの生ごみ

米農家

竹富町役場

サトウキビ
(バガス/ハガラ)

牛糞
稲わら・もみ殻

小中学校 給食センター

ホテル業者

民宿経営者

畜産農家

キビ農家
パイン農家
米農家

畜産農家

サトウキビ
(バガス/ハガラ)

牛糞
稲わら・もみ殻

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

- ・全てのものが島外からの仕入れへの依存
- ・個々で動き連携が出来ていない
- ・生物多様性を守れるような仕組みになっていない
- ・島内で消費される仕組みが弱い

地域のありたい未来

- ・多くのものが島内で調達できる
- ・みんなが連携し効率が良くなる
- ・生物多様性を農家がいるから保っている、と言える仕組みになる
- ・島内の人が島内の農産物を食べるし、それを積極的に伝えていく

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

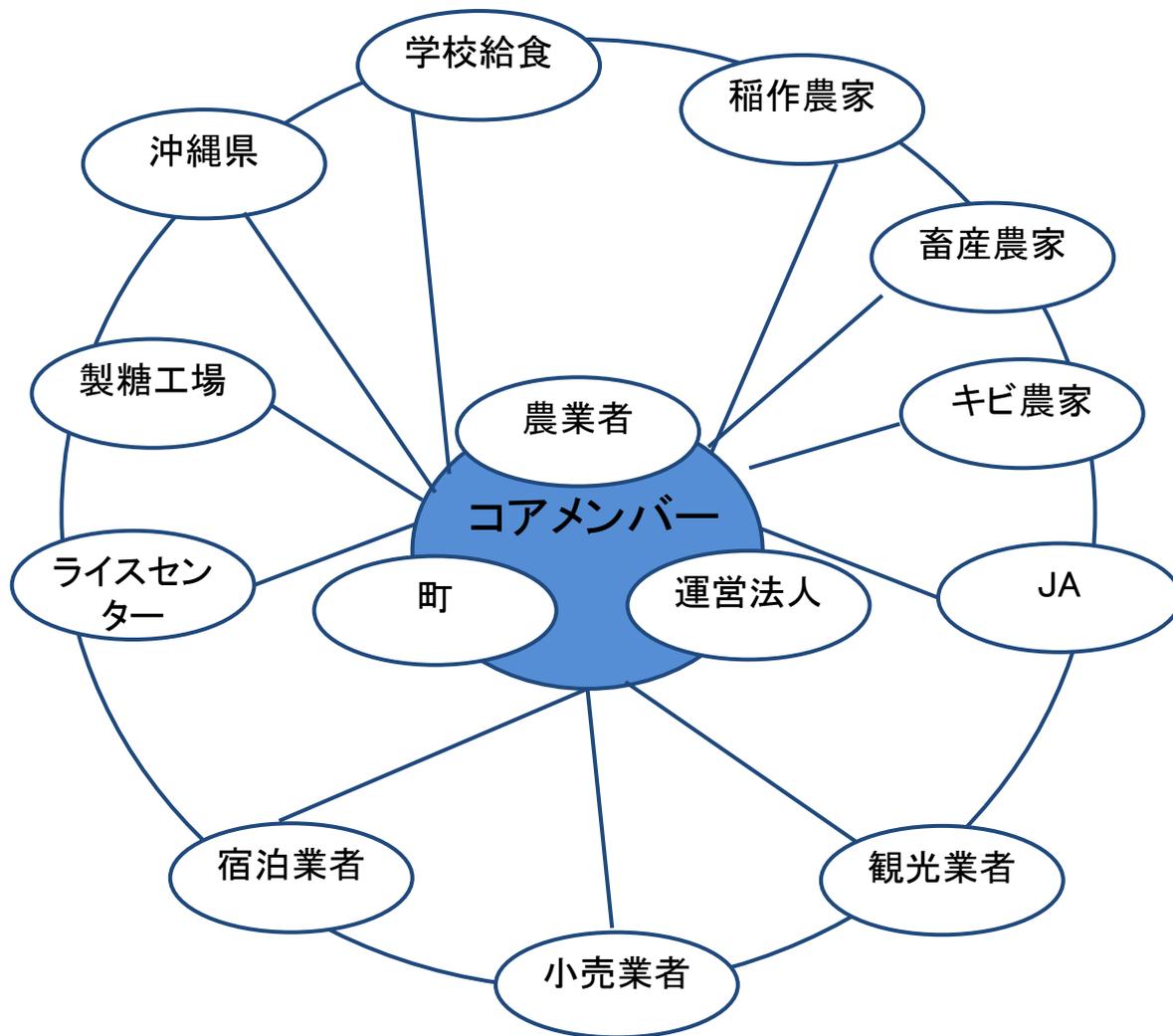
農家、学校給食、小売業や宿泊業者、観光業者、各種関係機関が参加する50名規模の任意の組織である。その中でも普段活動するのは6名ほどの若い農業者が中心となり組織を運営し、課題解決に向けて進んで行く。地域プラットフォームは実際に活動し営利活動をする若い農業者達のサポートや顧問といったような立ち位置で、自身は営利活動はしない。

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・農家、小売業者、宿泊業者、学校給食、観光業者、行政等の各関係者が相互につながりを持つことでそのつながりが資源となる（→プラットフォーム化）。
- ・農作物の残渣（米、サトウキビ、パイン）や家畜排せつ物（牛糞）、経産牛などが資源となる（→たい肥化事業、肥育事業）。
- ・島内で資金循環できる仕組み（生産、消費・販売ルート）が資源となる（→持続可能な地産地消）。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ



←新たに加わってほしいSH ステークホルダー

- ・西表財団
- ・竹富町商工会
- ・竹富町観光協会

←想定している課題・阻害要因

- ・みんなで一気にやるとスピード感が無くなる
- ・地産地消や資源の循環はJAにとってはマイナスなので調整が難しくなる。

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

観光が盛り上がる事で農産物も売れるし、農産物があるから観光も盛り上がるようなウィンウィンな関係をつくり、人も自然も観光も循環する西表島にする

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

- ・西表島にライスセンターをつくり、お米が精米までされ食べられる仕組みを作る事で、粃殻、米ぬか、という非常に重要な資源が島で手に入るようになる。
- ・堆肥センターをつくり、牛糞を堆肥化する事で環境への影響を抑えるだけでなく、堆肥として有機栽培の一助となる。
- ・農作物の価値を高める為に農薬も化学肥料も使わない資源の循環のみで作物が出来るのか実証実験をしていく。

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- ・経産牛の肥育と販売
- ・堆肥センターの建設
- ・生ゴミ堆肥のさらなる勉強や視察

年間スケジュール

